

1 ひび割れ補修(フィラー薄塗工法)

打放しコンクリートのひび割れ0.2mm以下の補修(挙動の少ないひび割れ 部分の補修)

施工手順

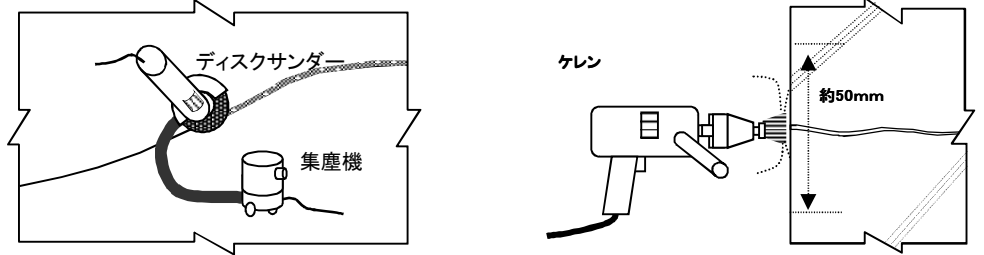
施工方法

補修範囲の確認

- ・クラックスケールで検測し、ひび割れに沿ってマーキングし補修範囲を確定する。
(既設外壁塗装面が吹付けタイルの場合は、塗装仕上げ時に、違和感を生じる恐れがあるので、吹付けタイルパターンの復旧法を協議し、確定後に施工を実施する。)

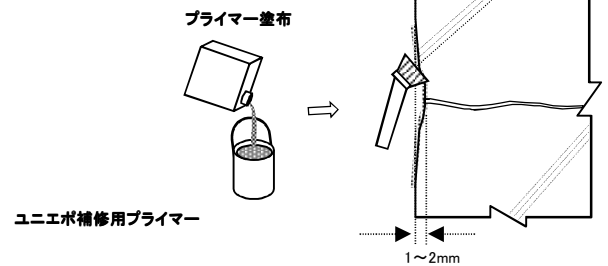
サンダーケレン

- ・サンダーケレンは、ひび割れに沿って集塵装置付きディスクサンダーで研磨する。研磨は、ディスクサンドペーパーを使用し、ひび割れを中心に幅50mm程度の表面劣化層を薄く除去し、中心部の10mm程度を1~2mm深さにする。
※表面研磨作業は、多量の粉塵を発生するので、必ず集塵、防塵対策を充分行う。



清掃・プライマー塗布

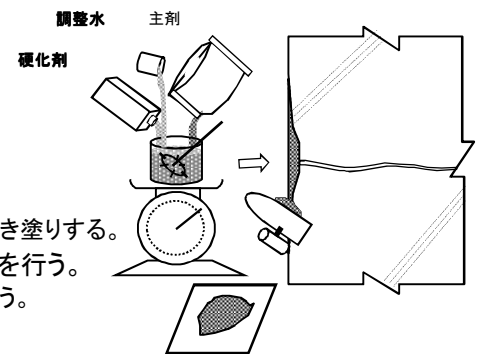
- ・研磨部分の切粉をワイヤブラシ、及び ダスター刷毛で除去し清掃する。
※清掃後、必要に応じプライマーをひびわれに沿って均一に塗布する。
ポンドユニエボ補修用プライマー(一液エポキシ樹脂プライマー)
塗布量0.2~0.3kg/m²(塗布後1日以内に次工程に移行する。)



カチオンフィラー混合

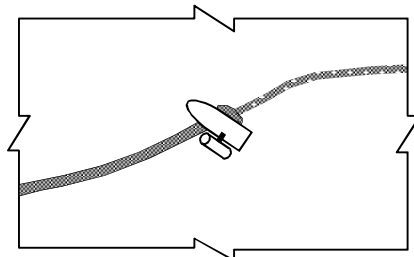
- ・使用材料の混練り(ひび割れに挙動が有る場合は、微弾性系材料で検討する)
使用するカチオン系フィラー材は、現場の塗装下地材に合う材質を選定する。
主材: 硬化剤: 水を既定の配合に混合し、使用する。
ポンドVPフィラー(カチオン系ポリマーモルタル)

主剤粉体	20kg
硬化剤	4kg
水	1~2kg



フィラーしごき塗り

- 研磨部分に沿って左官ゴテでフィラー材をしごき塗りする。
表面の水引を見計らって表面仕上げ押さえを行う。
※施工後、必要に応じドライアウト防止養生を行う。



完了

※ 補修作業は気象条件に十分注意し、夏季のドライアウト及び冬季凍結障害が発生しないようにする。特に冬季作業は夜間の結露や凍結障害を防止するために早めの作業終了や障害防止対策を講ずる。